



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 90

Aug 2023

目 次

○お知らせ

国際植物分類学シンポジウム

”The 10th East Asian Plant Diversity and Conservation

2023”のご案内・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

2023 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ・・・・・・・・・・ 4

第 23 回（2024 年度）日本植物分類学会賞

（学会賞および奨励賞）の受賞候補者の募集・・・・・・・・・・ 4

植物関連雑誌のタイトル紹介・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

○書評

和文 梅林正芳／著 山中典和／序文・校閲

「日本産樹木実生図譜」・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10

島野 智之・脇 司／編著 岩波書店／

「新種発見物語 一足元から深海まで 11 人の研究者が行く！」
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11

○会員消息・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

諸報告

国際植物分類学シンポジウム

"The 10th East Asian Plant Diversity and Conservation 2023" のご案内

国際植物分類学シンポジウム 2023 実行委員会 厚井 聡（大阪公立大学附属植物園）

前号のニュースレターでご案内した通り、日本・中国・韓国の植物分類学関連学会の共主催による、東アジアの植物多様性と保全に関する国際シンポジウムを10月28-30日に大阪で開催いたします。今回は、3カ国からの招待演者による口頭発表（対面およびオンライン）のほか、ポスター発表（オンライン形式）とエクスカージョンを予定しています。ポスター発表には、本学会の会員の皆さまはどなたでもお申し込み頂けるほか、優れた発表を行なった若手会員にはポスター発表賞を授与します。ぜひ参加・発表して頂きますよう、お願いいたします。

【日程】

2023年10月28日（土）～10月30日（月）

10月28日（土）午前 口頭発表

午後 口頭発表・ポスター発表

夕方 懇親会

10月29日（日）午前 口頭発表

午後 エクスカージョン1（大阪公立大学附属植物園）

10月30日（月）終日 エクスカージョン2（兵庫県 武田尾溪谷）

【会場】

大阪公立大学 田中記念館（大阪府大阪市住吉区杉本3-3-138 大阪公立大学杉本キャンパス）

【公用語】

口頭発表、ポスター発表、エクスカージョンも含めて全て英語のみとします。

【発表形式】

- ・口頭発表はハイブリッド形式（対面およびZoomミーティング）で実施します。プログラムの詳細はシンポジウムのウェブサイトに掲載します。
- ・ポスター発表を募集します。発表はオンライン形式（LINC Biz および Zoom ミーティング）で実施します。ポスターの閲覧・チャット機能を用いた質疑応答は10月27日（金）から開始する予定です。10月28日のポスター発表はZoom ミーティングを用いて行います（対面では実施しません）。
- ・参加者には大学のネットワークを利用するためのゲストアカウントを発行します。また eduroam ネットワークも利用できます。会場内の Wi-Fi を利用してネットワークに接続してください。

【懇親会】

日時：10月28日（土）夕方

野のはなハウス（大阪公立大学杉本キャンパス 学術情報総合センター1階）

【エクスカージョン】

エクスカージョン1（大阪公立大学附属植物園）

10月29日（日）午後にバスで会場を出発します。大阪府交野市にある大阪公立大学附属植物園を見学します。夕方、会場あるいは天王寺駅に戻る予定です。

エクスカージョン2（兵庫県西宮市塩瀬 武田尾溪谷、ぼたん鍋、入浴付、定員20名）

10月30日（日）午前9時半 JR 福知山線 生瀬駅集合。

福知山線廃線跡の武田尾溪谷（約5km、ほぼ平坦）を武田尾駅へ散策します。昼過ぎに武田尾温泉元湯で、ぼたん鍋で食事。風情のある温泉で入浴します。元湯周辺でも植物散策できます。午後4時に武田尾駅で解散します。往復の交通費は自己負担ください。

【参加・ポスター発表申込】

参加費等をお振り込み後、シンポジウムのウェブサイト（<https://2023sym.e-jsps.com/>）にある「参加・発表申込フォーム」からお申し込みください。

【申込締切】

ポスター発表者：2023 年 9 月 11 日（月）

ポスター発表者以外：2023 年 9 月 30 日（土）

【参加費・懇親会費】

	オンライン登録 (10月2日まで)	現地登録	懇親会	エクスカーション 1	エクスカーション 2
一般 (ポスドクを含む)	2,000 円	3,000 円	6,000 円	2,500 円	8,000 円
学生 (学部・大学院)	1,000 円	1,500 円	4,000 円	2,500 円	7,000 円

【参加費等の振込先】

参加費・懇親会費は、参加登録の前に下記の口座にお振り込みください。

郵便振替口座名称：国際植物分類学シンポジウム準備委員会

口座番号：00100-4-387623

【発表の要領】

本大会の公用語は英語です。発表には英語を用いてください。

ポスター発表

・LINC Biz というサービスを使用して実施します。大会期間中はいつでもチャットで質問をすることができます。多くの学会で使用実績のある発表方法ですので、ぜひご活用ください。

・LINC Biz でのポスターの掲載は会期前日の 10 月 27 日 9:00（日本標準時 Japan Standard Time）から可能です。掲載と同時にポスターは閲覧可能となり、チャット機能での質疑応答を始めることができます。シンポジウム終了後も 10 月 31 日 17:00（JST）まで利用可能です。

・10 月 28 日のコアタイムの発表は、Zoom ミーティング内に設定された各ポスターのブレイクアウトルームにて行います。発表を行う方は、Zoom ミーティングに入り、ご自分のポスターのブレイクアウトルームに入室して発表・討論を行って下さい。

発表要旨

・原稿のテンプレートをシンポジウムのウェブサイトからダウンロードしてご利用ください。

・図表を含めて A4 サイズ 1 枚に収めてください。

・提出方法：要旨を PDF ファイル形式に保存し、メール件名を「EAPDC2023abstract」とし、jspstaikai@gmail.com 宛てにお送りください。要旨受領のお返事を 3 日以内に差し上げます。3 日たっても返信がない場合は、お手数ですがお問い合わせください。

【ウェブサイト】

最新情報はシンポジウムのウェブサイトで随時お知らせいたします。



<https://2023sym.e-jsp.com/>

【問い合わせ先】

国際植物分類学シンポジウム 2023 実行委員会 厚井 聡

〒576-0004 大阪府交野市私市 2000 大阪公立大学附属植物園

Tel: 072-891-2681 / E-mail: gr-sci-sympo2023@omu.ac.jp

2023 年度日本植物分類学講演会のお知らせ

講演会担当委員 高山 浩司

2023 年度の日本植物分類学会講演会は、大阪学院大学の林一彦先生にお世話いただき、ハイブリッド（大阪学院大学とオンライン配信）での開催に向けて準備を進めております。講演会後の懇親会に関しましては、今後の新型コロナウイルスの状況を踏まえつつ可能な限り開催できるよう努力してまいります。

詳細につきましては、次号のニュースレターでご案内いたします。

日時：2023 年 12 月 9 日（土）午前 10 時～午後 5 時 00 分

講演会場：大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室（02-B1-02 教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸部南 2 丁目 36 番 1 号（電話：06-6381-8434）

講演スケジュールと演題（予定）

10:00-10:10 ご挨拶 村上 哲明（会長）

10:10-11:00 佐藤 博俊（京都大学）「ハラタケ綱菌類の種多様性の起源」

11:00-11:50 山尾 僚（京都大学）「植物の行動生態学：身近な雑草から探る植物の柔軟な生きざま」

（11:50-13:20 昼食）

13:20-14:10 渡邊 誠太（静岡大学）「ユリ属は面白い！－系統分類からわかったこと－」

14:20-15:10 廣田 峻（大阪公立大学）「東アジアで多様化したキスゲ属」

（15:10-15:20 休憩）

15:10-16:00 村上 哲明（東京都立大学）「牧野富太郎博士が遺した植物標本と日本の植物分類学への貢献」

16:00-16:50 岡崎 純子（大阪教育大学）「島嶼環境に直面した広域分布種の送粉生態型分化」

16:50-17:00 ご挨拶 林 一彦

第 23 回（2024 年度）日本植物分類学会賞（学会賞および奨励賞）の受賞候補者の募集

日本植物分類学会会長 村上 哲明

学会賞選考委員長 梶田 忠

以下の2つの賞の受賞候補者を募集します。候補者は、学会賞選考規定第2条に基づき、以下に該当する方です。自薦、他薦を問わず、会員の皆様の積極的な応募・推薦を期待しております。これまでの受賞者名等は、学会ホームページをご参照ください。

日本植物分類学会賞：植物分類学および日本植物分類学会の発展に特に顕著な貢献が認められた者に授与する。受賞者の資格は、10 年以上継続して本会会員である者とする。

日本植物分類学会奨励賞：受賞年の 4 月 1 日において満 38 歳以下で、優れた研究業績をあげた将来有望な研究者（学生を含む）に授与する。受賞者の資格は、3 年以上連続して本会会員であり、主要な研究業績の一部を本会の大会または雑誌に発表している者とする。

募集要領

他薦の場合は、推薦する候補者の氏名と推薦理由、どちらの賞に推薦するかをお知らせください。自薦の場合は、(1) どちらの賞への応募か (2) ご自分の研究全体に関するタイトル (3) 略歴（生年月日、学歴、職歴など）(4) 調査・業績の概要 (5) 業績リスト（論文、著書など）と本学会の大会での発表記録をワードファイル、あるいは A4 用紙に記入して（書式は自由）お送りください。自薦、他薦を問わず、さらに必要な資料があれば、学会賞選考委員会から候補者の方に提出を依頼します。応募は、e-mail でのファイル添付、または郵便でお願いします。

書類送付先：〒907-1541 沖縄県八重山郡竹富町字上原 870 琉球大学熱帯生物圏研究センター 西表研究施設 梶田 忠 宛 e-mail: kajita@mail.ryudai.jp

応募締切日：令和 5 年 9 月 30 日（土）

その他：両賞の受賞者は、令和6年3月の日本植物分類学会第23回大会において表彰されます。また、同大会において受賞講演を行っていただくことを原則としております。

植物関連雑誌のタイトル紹介

富山県中央植物園 中田政司

○ひがし大雪自然館研究報告

〒080-1403 北海道河東郡上士幌町ぬかびら源泉郷48-2 ひがし大雪自然館

<https://www.ht-shizenkan.com/s/study/>

第10号 2023年3月—山川千代美・植田弥生・鈴木三男・安井加奈恵・林 竜馬・山内康平・中村琢磨：北海道足寄産材化石の樹種について／乙幡康之：大雪山国立公園，上士幌町糠平温泉周辺の蘚苔類（予報）

○青森県立郷土館研究紀要

〒030-0802 青森県青森市本町2丁目8-14 青森県立郷土館

https://www.kyodokan.com/kenkyuu_kiyou/46

第46号 2023年3月—太田正文：青森県中南津軽地域のコケ植物調査（4）

○フロラ福島

〒970-8002 福島県いわき市平中平窪1-16-3 薄葉 満方 福島県植物研究会

<https://sites.google.com/site/lorafukushima/%E4%BC%9A%E8%AA%8C-%E3%83%95%E3%83%AD%E3%83%A9%E7%A6%8F%E5%B3%B6/%E3%83%95%E3%83%AD%E3%83%A9%E7%A6%8F%E5%B3%B6%E6%8E%B2%E8%BC%89%E7%9B%AE%E9%8C%B2>

第35号 2023年12月—山下由美・山下俊之：4種の菌従属栄養植物（アオキラン、ヒメノヤガラ、シロテンマ、ホクリクムヨウラン）の新産地報告／遠藤雄一・根本秀一・山下由美・山下俊之・黒沢高秀：福島県におけるスミレ科ゲンジスミレの現存の確認／上野雄規：東北大学植物園記念館に所蔵されている福島県新産植物Ⅰ／根本秀一・黒沢高秀：ふくしまレッドリスト（2017年版）において絶滅もしくは情報不足と判定されたクワガタソウ属（オオバコ科）について／薄葉 満：ホロムイソウの抽水形／薄葉 満：福島県の池沼に見えある記Ⅵ（南相馬市原町区鶴谷）／薄葉 満：いわき市におけるイヌカタヒバ（イワヒバ科）の逸出記録

○秋田自然史研究

〒010-0873 秋田市千秋城下町8-18 田中政行方 秋田自然史研究会

<http://akita-nathist.o.oo7.jp/mokuji.htm>

第80号 2023年1月—藤原陸夫・阿部裕紀子：論評：秋田県に記録されたミヤマシシウド，ケナシミヤマシシウド，ミチノクヨロイグサの正体（セリ科シシウド属）／高田 順：秋田県産ヨモギ属の検討（5）—オオヨモギの分類と分布—／高田 順：秋田県産ヨモギ属の検討（8）—特殊な形態のヨモギ類（1）—／菊地卓弥・鳥潟幸男・渡部道雄・成田秀美・鳥潟思絵／秋田県大館市，岩瀬川上流域で新たに見つかった風穴の植生調査／沖田貞敏：秋田県のイワウチワについて（2）

○群馬県立自然史博物館研究報告

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩1674-1 群馬県立自然史博物館

http://www.gmn.h.pref.gunma.jp/research_no27

第27号 2023年3月—三村昌史・青木雅夫・片野光一・吉井広始：茂林寺沼湿原における土壌掘り下げによって再生した希少植物／大森威宏：新型コロナウイルス感染下の企画展「すき間・片隅植物図鑑」に伴う資料収集活動の成果

○茨城県自然博物館研究報告

〒306-0622 茨城県坂東市大崎700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

<https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/materials/research/report/4654>

第25号 2022年12月—増井真那・富田 勝：ミュージアムパーク茨城県自然博物館の夏期の腐木で発見さ

○神奈川県自然誌資料

〒250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館

<https://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599725880823/index.html> (41 号より完全オンライン版化)

第 41 号 2020 年 3 月—新田 梢・岩田健志・大西 亘・倉田薫子：神奈川県産の腊葉標本を用いたミズヒキの葉の斑紋変異の地理的分布

第 42 号 2021 年 3 月—大井和之・岸しげみ・一ノ瀬友博：藤沢市に生育するクゲヌマランの遺伝子解析／洲澤 譲・洲澤多美枝：酒匂川（神奈川県）で採集された外来種ミズワタクチビルケイソウ

○横須賀市博物館研究報告（自然科学）

〒238-0016 横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館

<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/archives/publication/book/39736>

第 70 号 2023 年 3 月—山本 薫：57 年振りに発見された三浦半島産ハイネズ *Juniperus conferta* Parl. (ヒノキ科)

○長野県環境保全研究所研究報告

〒381-0075 長野市北郷 2054-120（飯綱庁舎）長野県環境保全研究所

<https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/johotekyo/kenkyuhokoku/hozen/index.html>

第 18 号 2022 年 3 月—尾関雅章・浜田 崇：UAV 写真測量を利用した中央アルプス固有種コマウスユキノウ生育状況の把握

○富山市科学博物館研究報告

〒939-8084 富山県富山市西中野町 1-8-31 富山市科学博物館

<https://www.tsm.toyama.toyama.jp/103521>

第 47 号 2023 年 3 月—佐藤 卓・太田道人：富山県に自然分布するキイチゴ属植物の分布の特徴／藤田将人・岩田朋文・吉岡 翼・清水海渡・太田道人：富山市山岳域自然調査報告（2022）

○富山県中央植物園研究報告

〒939-2713 富山県富山市婦中町上轡田 42 富山県中央植物園

<https://www.bgtym.org/research/>

第 28 号 2023 年 3 月—吉田めぐみ・和久井彬実・鮎田 翔・高橋一臣：立山—ノ越におけるタテヤマキンバイ個体群の 2010–2022 年の変化／山下寿之：北陸地方における地域レッドリスト種オオユリワサビ（アブラナ科）の出現する群落の種組成／早瀬裕也：富山県産のヤエイチリンソウ（キンポウゲ科）／高橋一臣：ヤダケとヤクシマダケの葉の表皮構造／和久井彬実：倍数性の異なるコケモモの生態型 2 タイプの発芽特性／吉田めぐみ：立山地域における特定植物群落の 40 年間の変化（4）／東 義昭・草間 啓・木村知晴・川窪伸光・中田政司・稲村 修：植物園と水族館の協働による海洋生態系保全の普及と啓発—海草群落の展示とその効果のアンケート検証／吉田めぐみ・和久井彬実・高橋一臣：立山地域における特定植物群落の 40 年間の変化（2）／志内利明・島崎洋平：カラースライドフィルムのデジタル撮影と画像データベースの構築—桐野秋豊氏撮影ツバキ写真の事例／兼本 正：琉球列島産ハマユビワの染色体（英文）

○富山の生物

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390 魚津水族館内 富山県生物学会

<https://toyamaseibutu.mizubasyou.com/zassi.htm>

第 62 号 2023 年 3 月—松村 勉・佐藤 卓・福田有希子・金子靖志・小倉恭子・氷見栄成・寺井康之・子浦由大：富山市山田川流域の森林構造／長井幸雄：富山県におけるハルナユキザサ（キジカクシ科）の分布／長井幸雄：大平山の植物相の概況／杉田久志：富山県西部飛騨高地、人形山周辺におけるオオシラビソの分布とサイズ構造／佐藤 卓：2022 年全国ブナ結実状況

○石川県白山自然保護センター研究報告

〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ 4 石川県白山自然保護センター

<https://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/publish/report/report49.html>

第 49 集 2022 年 12 月—河原 栄・糟谷大河・柁 典雅・後藤理子：白山亜高山帯の泥炭から抽出したきのこ孢子化石／北原岳明・八神徳彦・平松新一・野上達也・宮腰政男・西田睦男・池内 裕：白山公園線（石川県）におけるセイタカアワダチソウ（*Solidago altissima*）の分布及び除去の効果／近藤 崇・野上達也・伊丹えつ子：石川県のブナ科樹木 3 種の結実予測とツキノワグマの出没状況，2022

○福井市自然史博物館研究報告

〒 918-8006 福井県福井市足羽上町 147 福井市自然史博物館

<http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp/shuppan/kenpou/kenpou.html>

第 69 号 2022 年 12 月—立松和晃：福井県内で新たに確認された外来植物ハイコウリンタンポポ *Pilosella officinarum* F.Schultz & Schultz-Bip.

○岐阜県植物研究会誌

〒 501-1193 岐阜県岐阜市柳戸 岐阜大学教育学部生物学教室植物分類研究室 岐阜県植物研究会

第 37 巻 2022 年 12 月—高木正夫：新規帰化植物 *Lindernia nummularifolia* 〈エナウリクサ〉／天本匡宥・池松泰一：岐阜県産タイ類・ツノゴケ類チェックリスト（2022 年版）／千藤克彦：小学校校庭の樹木への解説板の設置とその有効性／広木詔三・後藤稔治：周伊勢地域における森林群集の成立過程を探る—湿地性樹木 4 種（シデコブシ、ハナノキ、サクラバハノキおよびミヤマウメモドキ）の種間関係を通じて

○鳳来寺山自然科学博物館報

〒 441-1944 愛知県新城市門谷字森脇 6 鳳来寺山自然科学博物館

<https://www.city.shinshiro.lg.jp/mokuteki/shisetu/shiryokan/houraijisan/shop.files/R5kanpou.pdf>

第 52 号 2023 年 3 月—中西 正：伊良湖岬古山の縞枯れⅡ．群落の変化

○ため池の自然

〒 470-0195 愛知県日進市岩崎町阿良池 12 愛知学院大学日進キャンパス 2 号館 2425 愛知学院大学教養部 富田啓介宛 ため池の自然研究会

<https://tameike.site/journal60.html> (1 号～ 59 号)

第 63 号 2022 年 12 月—角野康郎：兵庫県のため池の自然／大沼淳一：日本に残っているため池の数は何ヶ所か？／飯尾俊介：東谷山湿地群の植物／中西 正：豊橋市水神池の水草群落の 25 年の変化

○南紀生物

〒 646-0005 和歌山県田辺市秋津町 965 土永浩史方 南紀生物同好会会誌編集部

http://nankiseibutu.jp/nankiseibutu_hyosi.html

第 64 巻第 1 号 2022 年 6 月—黒崎裕貴・柁原行人：和歌山県新産菌類 4 種／山本好和：東京都産の興味ある地衣類Ⅰ／山本好和・坂東 誠・高萩敏和・河合正人：京都府京都市高雄の地衣類（2）／山本好和・盛口 満・佐藤寛之・杉本雅志・杉本まゆみ・多和田 匡：沖縄県国頭村与那川河畔の地衣類

第 64 巻第 2 号 2022 年 12 月—山本好和・加納康嗣・岡田純二・上杉 毅：三重県産の興味ある地衣類Ⅰ／山本好和・盛口 満・佐藤寛之：鹿児島県与論島と喜界島で確認された地衣類／山本好和・田中慶太：長崎県長崎市高島の地衣類

第 65 巻第 1 号 2023 年 6 月—山本好和・溝口恵敬・高萩敏和・坂東 誠：紀伊半島産の興味ある地衣類Ⅷ／山本好和：東京都産の興味ある地衣類Ⅱ／山本好和・盛口 満・佐藤寛之・杉本雅志・杉本まゆみ・多和田 匡：沖縄県南城市玉城の地衣類／後藤敏一：和歌山県内の淡水域および汽水域から報告された珪藻類／阪口正樹・向山裕子・岸川由紀子・岩崎博子・東山直美：大阪湾奥に位置する甲子園浜の植生Ⅱ—2018 年秋の 2 回の台風による大潮の影響と 3 年後の変化—

○くろしお

〒 646-0038 和歌山県田辺市末広町 15 - 21 藤五和久方 南紀生物同好会会報編集部

http://nankiseibutu.jp/mokuji_kuroshio.html

No.41 2022 年 9 月—北野一夫：和歌山県におけるオニシバリ（ジンチョウゲ科）の分布／北野一夫：和歌山県におけるガガバタ（ミツガシワ科）の分布／土永浩史：新宮市高田で観察された蘚類数種

○奈良植物研究

〒633-8529 奈良県奈良市高畑町 奈良教育大学 辻野研究室 気付 奈良植物研究会

<https://docs.google.com/spreadsheets/d/1GTgwbTjkPFRtLTdMn53qSOQGWACpzNh5/edit#gid=136016977> (会誌・会報記載植物名インデックス (1977 ~ 2014))

第 39・40 号 2019 年 11 月—織田二郎・尾上聖子・浅見 卓：紀伊半島のミツバツツジ *Rhododendron dilatatum* に関する分類学的研究／大和植物見聞録 (17)／木村全邦・藤井久子・通盛正樹・大崩貴之：奈良公園のヤワラゼニゴケ (ヤワラゼニゴケ科, ゼニゴケ植物門)

第 41・42 号 2021 年 11 月—小池巧馬・辻野 亮・加藤禎孝：奈良公園におけるイラクサの分布と占有面積に与える環境要因の影響／木村全邦・岸田知展・尾上聖子：ペラペラヨメナの奈良県内の生育記録

第 43 号 2022 年 8 月—加藤禎孝・前迫ゆり：奈良公園春日山原始林に分布するチドメグサ属 2 種の表現型可塑性

○近畿植物同好会々誌

〒639-0254 奈良県香芝市関屋北 5-5-21 織田二郎方 近畿植物同好会

http://kinshoku.eco.coocan.jp/kaisi_zaiko.html

第 46 号 (2023 年 1 月)—山住一郎・西村徹也・中野潤子：トサノミツバツツジについて (4)／富永明良：ヤマゴボウの種子について／植村修二：記録に残しておきたい南紀の植物 (3)／小林 智：大阪府立天王寺高等学校の草本植物相／藤井俊夫：万葉集の植物に関する考察 2：わすれぐさ／田中光彦：大東市でヒメフウチョウソウを記録する／山住一郎：ゲジゲジシダについて／伊吹寛子：2022 年巨椋池干拓地で出会った植物について／山住一郎：金剛山植物目録補遺 (2)

○和歌山県立自然博物館館報

〒642-0001 和歌山県海南市船尾 370-1 和歌山県立自然博物館

第 37 号 (2019 年 9 月)—内藤麻子：和歌山県産野生植物分布資料 (1)

第 38 号 (2020 年 9 月)—内藤麻子：和歌山県産野生植物分布資料 (2)

第 39 号 (2021 年 9 月)—内藤麻子：和歌山県産野生植物分布資料 (3)

第 40 号 (2022 年 9 月)—内藤麻子：和歌山県産野生植物分布資料 (4)

○大阪市立自然史博物館研究報告

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園 1-23 大阪市立自然史博物館

<http://omnh-shop.ocnk.net/product-list/120> (大阪市立自然史博物館友の会ネットショップ HP)

77 号 2023 年 3 月—石田 惣・若ごぼう市民調査グループ：地域の伝統野菜「葉ごぼう」の生産地と消費地の地理的構造—市民科学によるアプローチ／浜田信夫・田口淳二・佐久間大輔：博物館所蔵菌類標本へのカビ汚染についてのリアルタイム PCR による追跡／横川昌史：1896 年に採集された大阪府産のマツナノ標本を見いだす

○倉敷市立自然史博物館研究報告

〒710-0046 岡山県倉敷市中央 2-6-1 倉敷市立自然史博物館

<http://www2.city.kurashiki.okayama.jp/musnat/publication-2.html#no34>

第 34 号 2019 年 3 月—支倉千賀子・片山 久・狩山俊悟・池田 博：倉敷市立自然史博物館 (KURA) で見いだされたカンサイザサ *Sasa unoi* Makino (イネ科) のタイプ標本／狩山俊悟：岡山県植物誌資料 (18) 岡山県のトベラ科／狩山俊悟：岡山県植物誌資料 (19) 岡山県のマチン科

第 35 号 2020 年 3 月—狩山俊悟：岡山県植物誌資料 (20) 岡山県のセンリョウ科

第 36 号 2021 年 3 月—狩山俊悟：岡山県植物誌資料 (21) 岡山県のキク科アゼトウナ属

第 37 号 2022 年 3 月—狩山俊悟：岡山県植物誌資料 (22) 岡山県のユリ科バイモ属

○広島市植物公園紀要

〒731-5156 広島市佐伯区倉重 3-495 広島市植物公園

<http://www.hiroshima-bot.jp/motto/research/bulletin/index.htm>

第 34 号 2019 年 3 月—濱谷修一・田頭紀和：ラケナリア属 (キジカクシ科) 6 種における核形態学的研究 (英文)／世羅徹哉・青山幹男：広島県産クゲヌマランの染色体／池田誠慈・井上侑哉・久保晴盛・小山克輝・中原・坪田美穂・武内一恵・松村雅文・坪田博美：広島県三原市の維管束植物 (I)：概説とヒカゲノ

カズラ植物・シダ植物・裸子植物について／世羅徹哉：広島県フロラ覚書（9）ウドカズラおよびミツバコンロンソウ／井上尚子・白川勝信・山本昌生：広島県フロラ覚書（10）ツクシタンポポの新産地

第35号 2021年3月—世羅徹哉：広島県のキンキヒョウタンボク (*Lonicera ramosissima* Franch. et Sav. ex Maxim. var. *kinkiensis* (Koidz.) Ohwi), スイカズラ科について／池田誠慈・井上侑哉・久保晴盛・松井健一・中原・坪田美保・武内一恵・若木小夜子・坪田博美：広島県三原市の維管束植物（Ⅱ）：被子植物について

○徳島県立博物館研究報告

〒770-8070 徳島市八万町向寺山徳島県文化の森総合公園 徳島県立博物館

<https://museum.bunmori.tokushima.jp/kiyo.html>

第29号 2019年3月—茨木 靖・横田昌嗣・木場英久：沖縄県から新たに発見された外来イネ科植物，ホウキヌカキビ *Panicum scoparium* Lam.

第31号 2021年3月—小川 誠・大原賢二：徳島県阿南市におけるナガエツルノゲイトウ（ヒユ科）の新産地

第33号 2023年3月—茨木 靖・齋藤政美：クサビガヤ *Sphenopholis obtusata* (Michx.) Scribn. の宮崎県への帰化

○長崎県生物学会誌

〒852-8521 長崎県長崎市文教町1-14 長崎大学教育学部生物学教室内 長崎県生物学会

<https://nagabio.ninja-web.net/gakkaishi.html>

No.86 2020年6月—中西弘樹：アコウの巨木と天然記念物—長崎県を中心として／中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）5／田中慶太：長崎県産地衣類報告（6）／上田浩一：五島列島福江島で確認されたヤツシロラン類3種

No.87 2020年12月—中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）6／中西弘樹：トヨラクサイチゴ (*Rubus* × *toyorensis* Koidz.) 長崎県に発見

No.88 2021年6月—中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）7／大谷拓也：佐々川河口干拓地の水路で繁栄するハマボウ／中西弘樹：サガミランの花期について

No.89 2021年12月—中西弘樹：長崎県におけるタシロランの分布拡大／中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）8／田中慶太：長崎県産地衣類報告（7）

No.90 2022年6月—中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）9／中西弘樹：九州西岸のアマクサギとショウロウクサギ／山本美枝：長崎県五島列島福江島のグンバイヒルガオの記録／井口恵一朗：長崎県下で自生するクワズイモの由来に関する試論／宮崎正隆・迫頭裕二・堀口稔伸：大村市日泊町帯田のヘツカニガキ（辺塚苦木）

No.91 2022年12月—田中慶太：長崎県産地衣類報告（8）／中西弘樹：長崎県におけるウスキムヨウランの分布拡大／中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）10／中西弘樹・出口敏也・上田浩一：長崎県五島で発見されたヒロハネムとオオバネム

No.92 2023年6月—橋口 樹・服部 充：ウンゼンカンアオイ（ウマノスズクサ科）におけるキノコバエ *Cordyla* 属による送粉／中西弘樹：新長崎県植物誌ノート（長崎県植物誌補遺）11／中西弘樹：長崎県におけるヒメノボタン（ノボタン科）の分布変化と生態／田中慶太：長崎県産地衣類報告

○佐賀自然史研究

〒841-003 鳥栖市古野町600-1 鳥栖高校 矢川慎一郎 佐賀自然史研究会

<http://sashiken.sakura.ne.jp/>

第25・26号（合併号）2020年12月—上赤博文：唐津市虹の松原のハマウツボ *Orobanchae coerulescens* Stephan ex Willd.（ハマウツボ科）について／上赤博文：絶滅危惧種？判断に困る植物についての一考察／上赤博文：ナルトサワギク *Senecio madagascariensis* Poir.（キク科）の佐賀県における分布拡大について

第27号 2021年11月—上赤博文：佐賀県で新たな分布が確認された植物（11）／宮崎八州雄：佐賀県伊万里市でアメリカウンランモドキ（ゴマノハグサ科）を確認

第28号 2022年12月—大石寛貴：佐賀県における希少植物2種（トチカガミ・スズメノハコベ）の確認記録／大石寛貴：佐賀県におけるハビコリハコベの確認記録／奥園元晴：佐賀県で初めて野生化が確認されたセ

イヨウミズユキノシタ *Ludwigia palustris* (L.) Ell. (アカバナ科) / 上赤博文：花の島・佐渡に行ってきました part2.

○鹿児島県立博物館研究報告

(〒892-0853 鹿児島市城山町1-1 鹿児島県立博物館)

<https://www.pref.kagoshima.jp/bc05/hakubutsukan/shien/bulletine.html>

第39号 2020年3月—久保紘史郎：竹島（鹿児島県三島村）における植物採集記録／久保紘史郎：チドリノギを甫与志岳（大隅半島）に記録する／寺田仁志・立久井昭雄・川西基博・長谷川雄太：ツクシザクラの巨木群がある活火山諏訪之瀬島の植生について

第40号 2021年3月—桐野秀信：薩摩川内市樋脇町藤本周辺の植物（第2報）／寺田仁志：種子島湊川のマングローブ林について／寺田仁志・川西基博：下甕島のお花畑・風衝草原の植生について

第41号 2022年3月—久保紘史郎・岩 篤：鹿児島市で記録されたコトブキギク（キク科）／寺田仁志・久保紘史郎・立久井昭雄・馬場興市：志布志市ダグリ岬のキイレツチトリモチ発生地植生の植生／寺田仁志・荒河 翼・尾形之善・鎗木紘一・川西基博・立久井昭雄・和田美貴代：種子島西之表市大田におけるヘゴ個体群の植生

第42号 2023年3月—久保紘史郎：喜界町指定天然記念物「ヒロハネム」の同定／寺田仁志・立久井昭雄・前田広則・藤井義則：天然記念物「栗野町ハナショウブ自生南限地帯」の植生回復プロジェクトについて

書評

日本産樹木実生図譜

Drawings of seedlings of Japanese woody plants

和文 梅林正芳／著 山中典和／序文・校閲

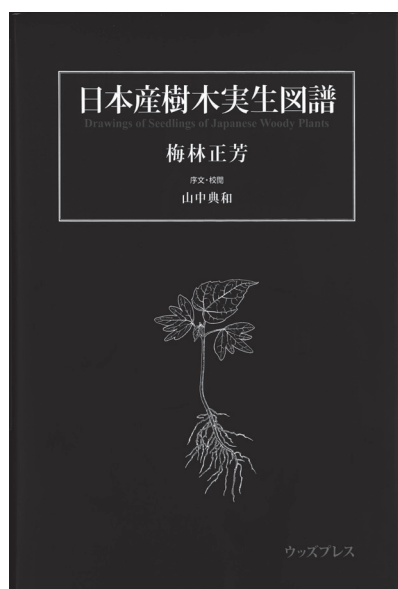
ウッズプレス 価格：16500円（本体価格15000円＋税）

A4判 509ページ 2023年3月

山田 敏弘（北海道大学理学研究院）

本書は日本の本州、四国、九州に自生する79科（裸子植物6科、被子植物73科414種（亜種、変種、品種含む）の木本植物の実生に関する図譜である。野外に見られる実生を同定することを主な目的としたものであり、前半に実生の検索表、後半に著者が30年弱をかけて書き溜めた詳細な植物図が示されている。検索表は、地表面に対する子葉の位置、上胚軸伸長の程度、初生葉の葉序・単葉／複葉の別を上位の指標形質とし、子葉、初生葉、茎などの形質が下位の指標形質として用いられている。植物図には、指標形質となる特徴の詳細のほか、根系を含む実生の全体像が示されている。子葉や初生葉の図には、脈序が精緻に示されているため、脈序に基づいて同定を行う古植物学者としては大変ありがたい。巻末には、「序文」の引用文献として、日本産植物の実生に関する文献がリストされており、より詳しく実生について知りたい場合に役立つ。

図鑑は使ってみないと評価できないので、本書を片手に大学構内で実生を探してみたところ、ケヤキ、ナナカマド、ハルニレ、イタヤカエデは検索表を基に同定できた。母樹の根元に同じ特徴を持つ個体が複数生えていたので、これらの同定はおそらく正しいだろう（分子同定して検証する根性がなかったため、あしからず）。しかし、本書で指標形質となっている上胚軸伸長の程度は、やや判断に困った。今回の探索は春先に行ったということもあり、上胚軸が伸び切って



いないというような事情もあるかもしれない。また、指標形質のいくつかには、ばらつきがあるように感じた。実生図鑑というのはそれほど前例がないので、「まえがき」で著者が書いているように、指標形質の選択は難しい問題である。今後の実生研究の進展とともに、指標形質が洗練されていくことを期待したい。

ともあれ、本書に示された実生の多様さには驚くべきものがあり、「実生」の研究が新しい多様性研究へと育っていくことを強く予感させる。是非、多くの植物研究者に本書を読んでもらいたいと思う。

著者の梅林さんには金沢大学在職中に大変お世話になり、くだらない話にしばしばお付き合いいただいた。その裏で、これほど膨大な仕事をされていたとは…。お邪魔して申し訳ありませんでした。

新種発見物語 一足元から深海まで 11 人の研究者が行く！

島野 智之・脇 司 / 編著 岩波書店 /

発行 ISBN：9784005009664 定価：本体 1,120 円＋税

新書判 270 ページ 2023 年 3 月 17 日

東北大学学術資源研究公開センター・植物園 伊東 拓朗

本書は総勢 11 人の気鋭の研究者による新種発見ストーリーをピックアップしたもので、各章ごとに植物、菌類、昆虫、魚類、貝類、鳥類と様々な分類群の専門家が執筆している。研究の舞台は、身近な足元から容易に近づくことのできない深海や海底洞窟、国外の秘境までと多岐にわたる。普段私たちが目にするような生き物が広く取り扱われており、その不思議な生態の解説なども見どころとなっている。そして本書の最大の特徴は、新種記載論文には決して描かれることのない、新種発見に至るまでの経緯が詳細に描かれている点であろう。多様なバックグラウンドをもった著者たちの歩んできた人生、対象生物の調査や標本作成の苦労、新種記載の後まで、著者らの情熱や執念を強く感じる一冊に仕上がっている。その臨場感あふれるエピソードから、著者らが経験してきた世界にだれしもが没頭することができるであろう。

新種発見と聞くと、みな生粋の分類学者による逸話と思われがちであるが、本書の多くの著者がもともと分類学の専門ではない点も新鮮であり、時代とともに変遷してきた分類学の現状を表しているように思える。本書は現代における新種記載のリアルを体感し、身近に感じてもらう一助になるのではないだろうか。そして、世界は依然として未知なる多様性に溢れていることを実感させてくれ、分類学にはやらなければいけないことがまだまだ残されているという、ある種の希望を抱かせてくれる内容になっている。

新種発見は何かとハードルが高いと思われがちであるが、生き物と真剣に向き合っている人ならば、誰しもが新種発見の当事者になる可能性があることを本書は教えてくれる。分類学に携わっている専門家はもちろんのこと、いま野生生物とかかわりのある方、そしてこれから野生生物とかかわりたいと思っている方、そしてまったく生き物とは無縁の生活を送っている方まで、ぜひぜひその手に取っていただきたい一冊である。



會員消息

編集室
より

暑い日が続きますね。今号では、シンポジウムや講演会のお知らせがあります。国際植物分類学シンポジウムは大阪で開催されます。ポスター発表者は9月11日が申し込み締め切りです。締め切りまで残りわずかですが、奮ってご参加下さい。なお、発表は英語のみです。また、2023年度日本植物分類学講演会の日程が決まりました。詳細については次号をお待ちください。

5-10 ページには、「植物関連雑誌のタイトル紹介」がされています。最近発表された日本全国の植物に関する研究や報告について確認することができます。ぜひ調査研究の参考にしてください。

今号では、書評を2つ載せています。ニュースレターでは、皆様からの寄稿をお待ちしております。

(ニューズレター担当幹事 大槻 達郎)

入会申込、住所変更、退会届、会費納入、購読申込
などは下記へご連絡ください。

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

日本植物分類学会 國府方 吾郎 (會計幹事)

Phone: 029-853-8423, Fax: 029-853-8998

E-mail: kaikei@e-jsps.com

会 費：一般会員 7,000 円，学生会員 3,000 円，

団体会員 8,000 円

郵便振替口座番号：00120-9-41247

加入者名：日本植物分類学会

令和 5 (2023) 年 8 月 20 日印刷

令和 5 (2023) 年 8 月 25 日発行

編集兼 滋賀県草津市下物町 1091

發行人 滋賀県立琵琶湖博物館

大槻 達郎

発行所 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館植物研究部

日本植物分類学会

*ニュースレターに掲載された記事の著作権は日本植物分類学会が管理いたします。